

在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会

事例検討
行動心理徴候（BPSD）への
アプローチ

グループワーク

症例：重度アルツハイマー型認知症

《患者背景》

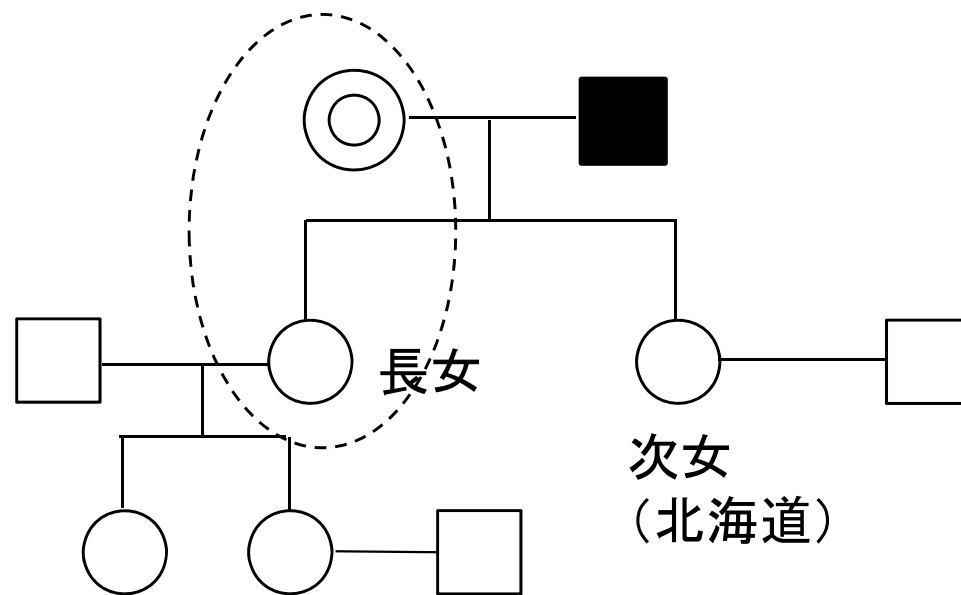
- Aさん 84歳（初診時） 女性

《家族背景》

- 夫は20年以上前に他界。
- 子供は娘が2人。

次女は北海道に嫁いだ。長女は同居して、ほぼ一人で介護にあたっている。

- 孫はすでに独立し、仕事を持っているが、受診の時などは協力してくれる。



《家族構成》

症例：重度アルツハイマー型認知症

《生活背景》

- 福井県生まれ。以前は夫婦で自営業（染物屋）を営んでいた。

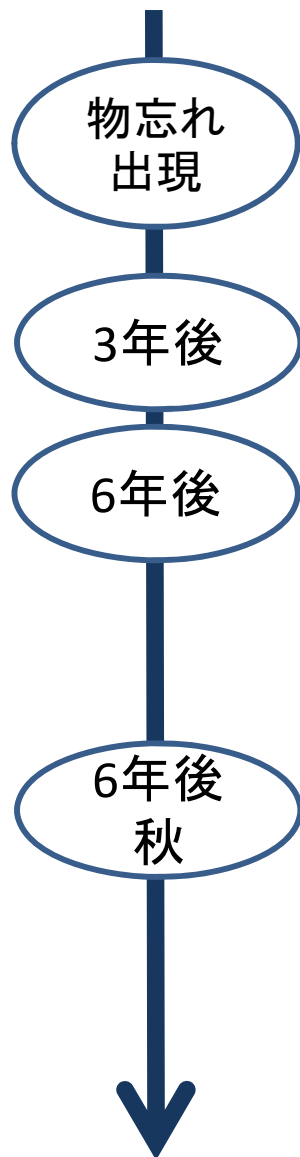
《社会的状況》

- 国保、老人医療受給者証あり。
- 年金は国民年金（月額4万程度）。
- 初診時介護保険は未申請。
- ご本人は一軒家の1階で生活している。

《相談者（長女）の希望》

- 暴言や暴力、徘徊が多くなり、排泄の問題が出現してきたため、どのように対応したらよいか相談したい。

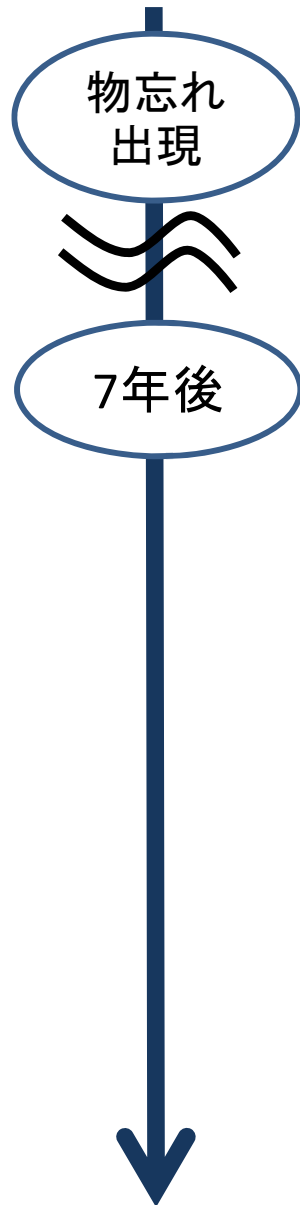
初診までの経過①



《初診(物忘れ出現から7年後の12月)までの経過》

- X年頃より物忘れがあり、時々つじつまが合わないことがあった。
- X+3年頃より物忘れがひどくなった。
- X+6年に孫が結婚してからは寂しがり、1人になると不安感が強くなった。長女の姿が見えないと、すぐ名前を呼ぶようになり、片時も離れられない状況になった。
- X+6年秋に一度大学病院のものわすれ外来を受診し、アルツハイマー型認知症と診断され、塩酸ドネペジル:(アリセプト[®])を処方されたが、副作用で中止し、以後中断している。

初診までの経過②



- X+7年夏頃から、歩行が拙劣になり、また、頻回にトイレに行くことが多くなった。
- X+7年に和式トイレに便座に据え置き式の洋式便座を取りつけてからは、尿意を感じると表にでて、外で排泄をするようになり、11月末からは夜間にも外に出て行くようになった。家族によると草むらを探しているようだ。

初診までの経過③

物忘れ
出現

7年後
11月

- X+7年の11月頃から不安感が増し、夕方暗くなると落ち着かなくなり、振るえながら、「恐ろしい」「家に帰る、家には両親がいるから」と言うようになった。

長女が「明日にしようね」というと、「そうやってごまかそうとする。だましにはのらない。」と言う。一度外にでて、散歩に付き合い、しばらくして家に帰ってきても、「またここに連れてきた」と怒る。

この1~2年は、長女のことは親戚の人と考えているようだ。

- 興奮すると「おなかが痛い」と訴え、ひどいときは30分~40分に1回のペースでトイレに行く。

初診までの経過④

物忘れ
出現



7年後
11月

- テレビに話しかけることもあり、現実と区別がつかない。
- お風呂に入れようとするとう「こんなにべとべとにして！」と怒り、食べ物も「こんな汚い物を誰が食べるのよ・・・」と言って、食事に手をつけようとしない。食欲もあまりないようで、バナナ少しと甘栗だけを食べている。
- また、暴言だけでなく、物を投げたり、長女を叩いたりするようになった。

グループワーク1

Aさんの行動心理徴候とご家族の生活困難について、どのようにアプローチしたらよいのでしょうか？

《ディスカッションのガイド》

- ①それぞれの専門職の立場で行うべきことについて考えてください。
- ②「まずは、何から支援していきますか」という視点でもディスカッションしていただけるとよいかと思います。
- ③基本講義のBPSD対応の基本などを参考にして議論してください。

司会・発表：ケアマネジャー
書記：歯科医師・歯科衛生士